



# UNIC Tokyo Dateline UN

December 2004 Vol.54

国際連合広報センター

## より安全な世界と 国連の強化に関する提言

ニューヨークの国連本部において12月2日、アナン・パニャラチュン元首相（タイ）が座長を務める「脅威、挑戦、変化に関するハイレベル・パネル」は、世界で新たに生じつつある脅威への対処に関する待望の報告書を提出。これを受け、国連のコフィー・アナン事務総長は同日、報告書に対する強い支持を表明しました。

「より幅広く包括的な集団安全保障体制を求める主張を、私は全面的に支持します。それは新旧の脅威に対処するとともに、貧富や大小を問わず、すべての加盟国が直面する安全保障上の懸念に取り組むものだからです」。パネルによる報告書「より安全な世界：私たちに共通の責任 (A more secure world: Our shared responsibility)」を国連総会に送付し、その検討と対応を求める書簡の中で、アナン事務総長はこのように述べています。



右からハイレベル・パネルの座長を務めるアナン元タイ首相、アナン国連事務総長、パネル・メンバーのブルントラント元ノルウェー首相

©UN Photo/NICA 58954 by E. Debebe

事務総長はさらに、「報告書は国連にとって、その刷新と再生を図るための絶好の機会を与えるものです」と語り、自らの権限内に入る具体的提言はすぐに検討し、実施に移すことを約束。他の国連機関にも同じ対応を求めました。

事務総長は特に、新たな包括的テロ対策を率先して促進すること、そして、自らのビジョンを明らかにして、年明けには各国政府による検討を求めることを公約しています。

## 世界エイズ・デーから

世界エイズ・デーの12月1日、ニューヨークのSt. John the Divine 大聖堂では、記念式典の夕べが催されました。

音楽やエンターテイメント、HIV/エイズと共に生きる人々からのメッセージに並び、エイズの蔓延と闘うグローバルな取り組みに対して惜しみない賞賛が寄せられました。また、式典ではアナン事務総長による基調講演も行われました。写真は、南アフリカの聖歌隊による特別公演の様子です（世界エイズ・デー関連記事2-3ページへ続く）。

### INSIDE

エイズ流行に関する最新情報	2
世界エイズ・デーに寄せる アナン事務総長メッセージほか	3
2005年の国際年は？	4-5
グローバル・コンパクト 合同シンポジウムを開催	6
トピックス@UN 国連防災世界会議、島嶼開発途上国 に関する国際会議	7
トピックス@UN ライブラリー	7
UNGallery : スポーツと体育の国際年	8

<http://www.unic.or.jp/>



©UN Photo/NICA 59020 by M. Garten

# エイズ流行最新情報

～感染者数・新規感染者数・死亡者数とも過去最高に～

12月1日は“世界エイズデー”です。この国際デーに先立ち、国連合同エイズ計画（UNAIDS）と世界保健機関（WHO）は11月23日、2004年版『エイズ流行最新情報（AIDS Epidemic Update 2004）』を発表しました。



©UNAIDS/L. Taylor

2002年の世界エイズデー  
（ウクライナ・キエフにて）

Epidemic Update 2004 AIDS Epidemic Update 2004 AIDS Epidemic Update 2004 AIDS Epidemic Update 2004 AIDS Epidem

## ■全世界の流行状況

2004年未現在で全世界のHIV（Human Immunodeficiency Virus: ヒト免疫不全ウイルス）と共に生きる（AIDS患者を含む）人々の数は過去最高の3,940万人に上ると推計されています。同年中の新規感染者も490万人と過去最高で、これは一日あたり約13,000人、実に1分間あたり9.3人が新たに感染しているという計算になります。AIDSによる死亡者数も310万人と過去最高と、AIDSの流行は引き続き拡大の一途をたどっています。

## ■地域別状況 アフリカ・アジア

AIDS蔓延の形態は、地域・国によりさまざまです。

サハラ以南アフリカでは、地域全体のHIV感染率の変化だけを見ると変化が少なく一見安定してきているかのように見えています。しかし、これは、一年間に新たに感染した数（310万）と、死者数（230万）が非常に高い水準（HIV感染者数2,540万人）で釣り合っている、という現実を示しています。

アジア地域も、HIV感染率だけで見れば他地域よりも低いかもしれませんが、特に東アジアでは2002年から2004年の間に感染者数が約50%増加するなど、流行が急速に拡大していること、また、非常に大き

## 2004年未現在 地域別 HIV 感染者数

— 2002年未現在との比較 —



2002年未→2004年未

**合計: 3,660→3,940万人**

な人口（中国、インド）を抱えている国があることを考えると、これまでにも増した警戒が必要といえます。

## ■女性とエイズ

女性は、男性よりも身体的にHIVに感染しやすく、女性のHIV感染者は世界中で増加を続けています。サハラ以南アフリカでは、成人HIV感染者の6割近く、実に1,330万人が女性であると推計されています。エイズ蔓延を食い止めるためには、ジェンダー間の不平等に対処する戦略立案、女性に対する暴力予防、女性、少女の財産権や相続権、基本的な教育や雇用の機会を保障することが重要となってきます。

## ■予防戦略の活性化を

2001年の国連エイズ特別総会以降、国際社会の対応は急激に変貌

してきました。例えば世界の資金供給は約21億米ドルから2004年には61億米ドルに増大するなどその取組みの進歩が見られます。

しかしながら、AIDS問題の世界的な規模に匹敵する対応策をとるためには、なお一層の努力が必要とされています。流行拡大に先手を打つためには、治療と予防の双方へのバランスの取れたアプローチ、特に予防戦略の再活性化が重要になること、そのことが長期的に見て、AIDS流行への効果的な対策につながると報告書は指摘しています。（文・UNAIDS 小池創一氏）

## ■ AIDS Epidemic 2004 の入手方法

UNAIDS ホームページ

<http://www.unaids.org/wad2004/report.html>

日本語訳（暫定翻訳版）

エイズ予防財団ホームページ

[http://api-net.jfap.or.jp/siryou/worldnow/unaids\\_2004.pdf](http://api-net.jfap.or.jp/siryou/worldnow/unaids_2004.pdf)

世界エイズ・デーに寄せる  
コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

～女性の勇気と創造性に富む対策努力に敬意～

今年の世界エイズ・デーは、今日のHIV／エイズ禍の中で女性と女兒が背負わなければならない負担を認識するだけでなく、その蔓延防止において女性があげた成果を称える機会でもあります。

女性は限りない勇気と創造性をもって、HIV／エイズ対策にあたっています。私が訪れた世界中の国々やコミュニティのほとんどでは、女性たちの声をもっとも大きな説得力を持っています。女性の提唱者や活動家は、私利私欲を離れた感情に突き動かされ、しばしば偏見や虐待、暴力に耐えながらも、他者の暮らしを少しでも改善しようと声を上げているのです。

しかし、女性たちがエイズ対策で見せる勇気に優るとも劣らない勢いで、エイズの被害は女性たちの身に降りかかっています。女性はすでに、貧困の矢面に立たされています。エイズによって、女性はさらに逃れがたい貧困の罠にはまりやすくなっています。職場から土地所有や相続を律する法律に至る



中国の北京大学で行われたセミナーの様子。集まった学生たちはHIV感染者の女性の話に熱心に耳を傾けた  
©UNAIDS/K. Hesse

まで、女性は多くの点で差別を受け続けています。エイズはさらにその危険性を高めます。女兒は学校に通えない子どもの大半を占めています。エイズが家庭を襲えば、学校に通っている女兒が連れ戻され、家事の手伝いや病気の家族の世話をしなければならないことがあまりにも多くなっています。

女性が感染しやすいのはなぜでしょうか。男性よりも女性に婚外交渉や薬物注射が多く見られるわけでもないのに、なぜこのような結果になるのでしょうか。それは通常、社会の不平等によって女性のリスク、つまり不当で不合理的な

リスクが高まるからです。これには貧困、虐待や暴力、情報不足、年上の男性からの強要など、多くの要因が絡んでいます。しかも、男性が同時に複数の女性と性的関係を持つことで、若い女性は大きな感染の罠にはまってしまう。結婚でさえも当てになりません。感染者の多い国の中には、未婚で性交渉のある女性よりも既婚女性のHIV感染率が高くなっている国もあるのです。

これらの要因に個別に取り組むことはできません。必要なのは、より大きな力と自信を女性や女兒に与えるような実質的かつ積極的な変化です。それは、社会のあらゆるレベルで男女間の関係を転換する変化です。このような変化は女兒の教育、法律・社会改革、さらには男性の認識と責任感の向上なしには実現できません。エイズとの闘いでは、女性こそが真の英雄です。その女性に希望を与えることが、私たちの課題なのです。

Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales -- Telling Tales --



ゴードイマー氏



アップダイク氏

ニューヨークの国連本部では11月30日、書籍“Telling Tales”に関する記者会見が行われ、編集に携わったノーベル文学賞受賞者で国連開発計画（UNDP）親善大使のナディン・ゴードイマー氏のほか、作家のサルマン・ラシュディ氏、ジョン・アップダイク氏らが顔を揃えました。

この本は、HIV／エイズによる影響が最も深刻な地域のひとつである南アフリカの犠牲者のために制作されたもので、21人の現代作家による短編集となっています。ゴードイマー氏のほか、大江健三郎氏ら5人のノーベル文学賞受賞者に加え、ウディ・アレン氏、アーサー・ミラー氏らが執筆に協力しています。



UN Year of Microcredit 2005

## 国際マイクロ・クレジット年

[www.yearofmicrocredit.org](http://www.yearofmicrocredit.org)



記者会見にのぞむブラウン UNDP 総裁ほか  
©UN Photo/NICA 56681

ニューヨークの国連本部は11月18日、貧困層と低所得層が金融サービスを利用しやすくするための取り組みの一環として、「国際マイクロ・クレジット年」をスタートさせました。マイクロ・クレジットとマイクロ・ファイナンスに関する世論の認識を高め、政府、援助機関、国際機関、非政府組織(NGO)、民間、学界、マイクロ・ファイ

ナンス利用者の中で斬新なパートナーシップを促進しようというのが、そのねらいです。

国際マイクロ・クレジット年の全体的な最終目標は、貧困層と低所得層が生計を安定させ、今後の生活を向上させてゆくために、貸付、貯蓄、保険、振替、送金などの金融サービスを利用しやすくすることにあります。

「2015年までに1日1ドル未満で暮らす人々の割合を半減させるというミレニアム開発目標(MDGs)を実現するため、世界は野心的な方針を定めました。マイクロ・ファイナンスは目標実現を助ける強力なツールです」と、国連開発計画(UNDP)のマーク・マロック・ブラウン総裁は語っています。

マイクロ・クレジットとマイクロ・ファイナンスはすでに、数百万人の貧しい人々の家計所得と生活の向上に効果をあげていますが、金融サービスを利用できず、生活水準の向上や不況への対策を図れない人々もまだ多くいます。金融サービスから恩恵を受けられるはずの人々は数十億人に上っていても、その需要のごく一部しか満たされていないのが現状です。この大きな格差を埋めるため、国際マイクロ・クレジット年では、裾野の広い金融部門を構築することで、世界各地に見られるしっかりと、しかし未発掘の起業家精神を強化するよう呼びかけてゆきます。

同国際年のもう一つの重要なねらいは、貸付返済や家計所得の管理、資産と事業の構築、経済への貢献という点で、女性をはじめとするマイクロ・ファイナンス利用者が信頼できる存在であるとの世論の認識を高めることにあります。

## 2005年の国際年は？

国際社会が一年間を通じて1つの共通した問題に取り組む「国際年」。国連は来たる2005年を「国際マイクロ・クレジット年」「国際物理学年」「スポーツと体育の国際年」に制定しています。

国際年の制定は通常、国連総会の間で行われ、この決定を受けて各国政府は官民合同の国内委員会を設置し、行動計画を作成するように要請されます。

2005年に指定された3つの国際年は、一見するとそれぞれ関わりのないテーマに思えますが、発足にあたって国連が発表する内容からは「開発」というキーワードで結ばれた国際年への期待が浮かび上がってきます。

以下は、国連本部で行われた発足式に関するプレスリリースからの抜粋です。さらに詳しい日本語資料は [www.unic.or.jp](http://www.unic.or.jp) の「国際年2005」をご覧ください。



## 国際物理学年

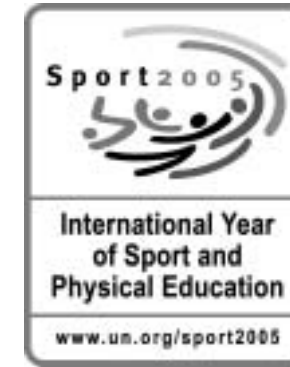
[www.wyp2005.org](http://www.wyp2005.org)

国連総会は2005年を「国際物理学年」とすることを決定しています。この決定は、物理学が自然に対する理解を高める上での重要な基礎であり、今日の技術進歩の多くの基礎として開発に欠かせないことを再認識することを目的としています。

2005年はアルベルト・アインシュタインが近代物理学の礎となった重要な科学的発見(光電効果の理論、ブラウン運動の理論、特殊相対性理論)を発表した1905年からちょうど100年目にあたります。

国際物理学年の幕開けとなる会合「明日のための物理学(Physics for Tomorrow)」が2005年1月13-15日にパリで開催されます。この会合は国連機関、国連教育科学文化機関(UNESCO)、国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)、欧州物理学会(EPS)の協力のもとに行われる予定です。

会合には1,000人を超える参加者が予想されており、多数のノーベル賞受賞者や科学界の著名人、また80カ国以上から500人にのぼる学生たちが国際物理学年の幕開けを祝います。物理の分野において各国で最優秀の成績を修めた17-21歳の若者たちの中は国際物理オリンピックの入賞者もあり、まさしく物理学の将来の担い手となることでしょう。



## スポーツと体育の国際年

[www.un.org/sport2005](http://www.un.org/sport2005)

ニューヨークの国連本部で2004年11月3日、卓越したテニスプレーヤーであるスイスのロジャー・フェデラー氏とINGニューヨークシティ・マラソンの記録保持者、ケニアのマーガレット・オカヨ氏の協力を得て、国連は文化的・民族的な溝を埋め、人々の生活の質を改善する「スポーツの力」に焦点を当てる1年間の計画を披露しました。



記者会見の様。左からフェデラー選手、オギ氏、アナン国連事務総長、ハシャニ氏、オカヨ選手  
©UN Photo/NICA 55702 by E. Debebe

「スポーツと体育の国際年2005」は教育、健康、開発、平和の促進にスポーツを活用するよう呼びかけるものです。国連本部ではこれに関し、フェデラー、オカヨ両氏のほか、アナン国連事務総長、開発と平和のためのスポーツ国連事務総長特別顧問のアドルフ・オギ氏、チュニジア国連常駐代表のアリ・ハシャニ氏の参加による記者会見が開かれました。進行役はジャシ・タルーア広報担当事務次長が務めました。

「スポーツはあらゆるコミュニティの生活を改善する役割を果たすことができる」と事務総長は語っています。「この理解に基づき、政府や開発機関、コミュニティに対し、特に貧困、病気、紛争の中で暮らす子どもたちを援助する計画の中に、スポーツをより組織的に取り入れるにはどうしたらよいかを考えるよう促す時期が来た、と私は確信しています」

国連は従来から、社会におけるスポーツの重要性を認識し、スポーツ界との密接な関係を築いてきました。国連の機関、基金、プログラムは、環境破壊などの差し迫った課題に対する関心を高めることと、貧困層や社会的に疎外された人々の生活を改善することの2つを目的に、実に幅広いスポーツ関連活動を実施しています。具体的な活動は、難民キャンプの子どもたちがサッカーで遊べるようにするためのプロジェクトから、スポーツへの参加を出席率と成績の向上に結びつけるプログラム、さらには、新たに開発されたスポーツ施設のレクリエーション地域を整備することで雇用を創出し、そこで失業者が職業訓練を受けられるようにする活動まで、多岐に及んでいます。

## 国連グローバル・コンパクトの目指すもの

国連グローバル・コンパクト（GC）ジャパン・ネットワークとGRI日本フォーラムは11月19日（金）、「持続可能な社会の枠組み」の観点に立って企業の社会的責任（CSR）を考える合同シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、平和や貧困、地球温暖化など地球および社会が直面するさまざまな問題におけるグローバル企業の役割について活発な意見交換が行われました。また、今年6月にGCに参加した三井住友海上火災保険社長・CEOの植村裕之氏が対談に参加したほか、国連広報センターの野村彰男所長が「国連グローバル・コンパクトが目指すもの」のテーマで講演を行いました。以下は講演からの抜粋です。



### ◇グローバル・コンパクトとは



野村彰男・国連広報センター所長

グローバル・コンパクト（GC）は「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を掲げて、企業活動を進めるにあたってこれらの原則を尊重すること

を求めています。人権は「世界人権宣言」、環境は「環境と開発に関するリオ宣言」というように、それぞれすでに世界的に確立された合意に基づいて定められた原則です。つまり特別な要求や新たな基準を企業に突きつけようというものではありませんし、何よりも企業活動を規制する手段ではありません。

### ◇参加企業への期待

GCが参加企業にまず期待するのは、10原則を大事にして企業活動自体をこの原則に沿ったものにしてほしいということです。企業の大小を問わず、自社の雇用や人事管理にあたって差別をなくし、生産や販売など企業活動にあたって環境や人権を守り腐敗防止に努める。その場合、トップの意識だけ高くても意味がなく、担当部署だけが10原則を承知していてもだめで、全従業員にGCへの参加の意味を周知徹底し、意識改革をしていただくことを期待しているわけです。さらに、サプライチェーンにも原則を広げるなど、良

き「企業市民」を目指してほしいということです。

### ◇GCをめぐる世界的な動き

GCの世界的な動向をみると、企業だけでなくビジネス団体やNGO、都市、あるいは証券取引所などが参加するケースが出てきました。

証券取引所はGCへの参加を企業評価の1つの指標とし、オーストラリアのメルボルンなどの都市では、市内の企業やNGOなどととも環境や人権などのGCの原則に沿って共同で問題を討議し解決にあたる、といった動きが芽生えています。

GCに参加すると国連が提供する



写真提供・GRI日本フォーラム

参加企業のネットワークの中に入ることになります。このネットワークでは「政策対話」と呼ばれる意見交換会や勉強会が開かれ、問題に直面したときの解決方法や、国連がめざす貧困や飢えの撲滅、環境保全などにかかわる企業のよい先例などノウ

ハウを共有するとか、事例を通してどういうことに取り組めるかを知ることでもあります。

### ◇グローバルな貢献を視野に

国連はいまGCが発展の第二段階に入ったと位置づけ、その「信頼性」を高める努力を強めようとしています。世界的にみると、参加したというだけで何もしない、あるいは、GCを隠れ蓑につかっているのではないかと疑われるケースがなきにしもあらずだからです。

21世紀の今日でも、地球上には、食糧不足や水不足、エイズに苦しむ人々や難民、初等教育も受けられない子どもがひしめいています。最近、アナン事務総長と製薬会社数社のCEOが会談して、製薬会社側がエイズの治療薬を安く提供することで合意した、という例もあります。

CSRの一環として社会的、国際的な取り組みを企画するとき、国連が

めざす貧困撲滅などの目標も視野に入れて、それぞれ得意とする分野で貢献する方向へ発展し、さらにグローバルな形で活動の可能性が広がることを期待しています。

（2004年12月現在、日本のGC参加企業数は26になりました）

## トピックス @UN

### ◎国連防災世界会議を神戸で開催

国連は2005年1月18日～22日の5日間、「国連世界防災会議」を兵庫県・神戸市で開催します。本会議の目的は、1994年の第1回会合で採択された行動計画「横浜戦略」の見直しを完結し、21世紀の防災指針の策定を行うことです。

国際社会では、横浜会議以降の進捗状況を取りまとめるとともに、ミレニアム開発目標（MDGs）の実現促進のため、2005年から2015年を対象とする新たな防災の行動計画を策定することが重要だとの認識が強まっています。阪神淡路大震災から10周年にあたる節目の時期に、日本で再び防災世界会議が開催されることは、日本のみならず国際社会からも大きな関心が寄せられています。

防災世界会議は政府間協議、テーマ別協議およびパブリックフォーラムの3つから構成され、神戸市のポートピアホテルおよび隣接する神戸国際会議場、神戸国際展示場を会場に開催されます。国連加盟国から政府高官をはじめとする代表団が参加し、国連からも数多くの機関が参加します。参加者は2,000～3,000人に上ると見られます。

会議ウェブサイト：[www.unisdr.org/wcdr](http://www.unisdr.org/wcdr)

当センターのホームページ [www.unic.or.jp](http://www.unic.or.jp) では日本語による案内も行っています。

### ○ お知らせ ○



阪神・淡路大震災10周年記念事業の一環として、国連郵政部（UNPA）の協力のもと国連切手が発行されます。

記念切手シートには、震災被害の様相と復興のシン

ボルである「HAT神戸」などの写真が使用されています。

お問い合わせは、日本国際連合協会・兵庫県本部（Tel: 078-230-3260・Fax: 078-230-3280）まで。

### ◎島嶼開発途上国の挑戦

国連加盟国191カ国のうち、そのおよそ2割にあたる37の国と地域が島嶼開発途上国（Small Island Developing States = SIDS）です。国連に加盟していない国・地域を含めると計51にのぼり、世界の国々の4分の1がSIDSということになります。



SIDSは島という環境の制約上、持続可能な開発に関わるさまざまな困難に直面しています。特に、自然災害や地球温暖化の影響を受けやすいことが、防災やリスク管理の必要性を一層強めています。

こうした状況を改善するには、早急な温暖化対策の国際的な整備や、自然の生態系の保護、そして経済の活性化が必要です。国連は2005年1月10-14日にモントリオールで「島嶼開発途上国に関する国際会議」を開催し、新たな行動計画の策定をめざします。

会議ウェブサイト：[www.un.org/smallislands2005](http://www.un.org/smallislands2005)

## トピックス @UN ライブラリー

### ◎国連統計ナビ、スタート

UNドキュメンテーションサービスでは、ライブラリー利用者のご要望にお応えし、国連の統計資料に関するガイダンス「国連統計ナビ」を開始しました（12月10日、第1回を実施）。

内容は以下の3部構成です。

第1部「国連統計概説」：国連統計委員会や統計局、国際比較のための分類等の説明に加えて、紙媒体の各種統計資料を紹介。

第2部「オリエンテーション」：参加者が各自でライブラリーに所蔵する統計資料を閲覧。

第3部「インターネット国連統計」：無料の経済社会統計サイト、並びにCOMTRADEやCDB、MBS等といった有料の各種統計サイトを詳しく案内。

今後、毎月1回のペースで実施予定です。

問い合わせ・申し込み先：

UNドキュメンテーションサービス

Tel: 03-5467-1305・Fax: 03-3499-8272

URL: [www.unic.or.jp/un-ds](http://www.unic.or.jp/un-ds)

2005 年は国連の定める「スポーツと体育の国際年」です。一年を通して、教育、健康、開発および平和を促進する上で、スポーツと体育が重要な役割を果たしていることを、世界の人々に理解してもらうことをめざします。

東京・渋谷の UN ギャラリーでは、「スポーツと体育の国際年」を記念して、NPO グローバル・スポーツ・アライアンス (= GSA 東京都渋谷区渋谷 理事長：山本正) と共催で「スポーツを愛する地球の仲間たちへのメッセージ展」を開催します。スポーツが好きな人であれば、きれいな水と空気のあるところでプレーしたいと願うはず。そんな豊かな地球環境や平和な世界を未来世代に残せるよう、スポーツ界から発信されたメッセージをパネルやアート作品の展示などにより紹介します。



～写真集「Vital Messages」より～

### ● UN ギャラリー写真展 ●

#### スポーツを愛する 地球の仲間たちへのメッセージ展

期 間：12月20日(月)～2005年1月28日(金)  
午前10時～午後5時30分

休館日：土日および12月23日、  
12月30日～2005年1月4日、21日

\* 2005年1月16日(日)は開館

場 所：UN ギャラリー (UN ハウス1、2階)

入 場：無料

主 催：国連広報センター、特定非営利活動法人  
グローバル・スポーツ・アライアンス (GSA)

\* ワークショップなど詳しい内容は  
[www.unic.or.jp/gallery/gallery.html](http://www.unic.or.jp/gallery/gallery.html)まで

### Vital Messages

中田英寿、北島康介、杉山愛、三浦雄一郎ほか25人のトップアスリートたちが寄せる地球環境・平和へのメッセージ写真集「Vital Messages (ヴァイタル・メッセージ)」の中からパネル展示。

RECYCL'art (リサイクルアート) とは、リサイクルとアートを組み合わせた造語。中田英寿、清原和博両選手ほかトップアスリートの使ったスポーツ用品を素材としたアート作品を展示予定。

RECYCL'art



## 発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: [unic@untokyo.jp](mailto:unic@untokyo.jp)